

## 本證寺境内について

### ほんしょうじけいだい 本證寺境内

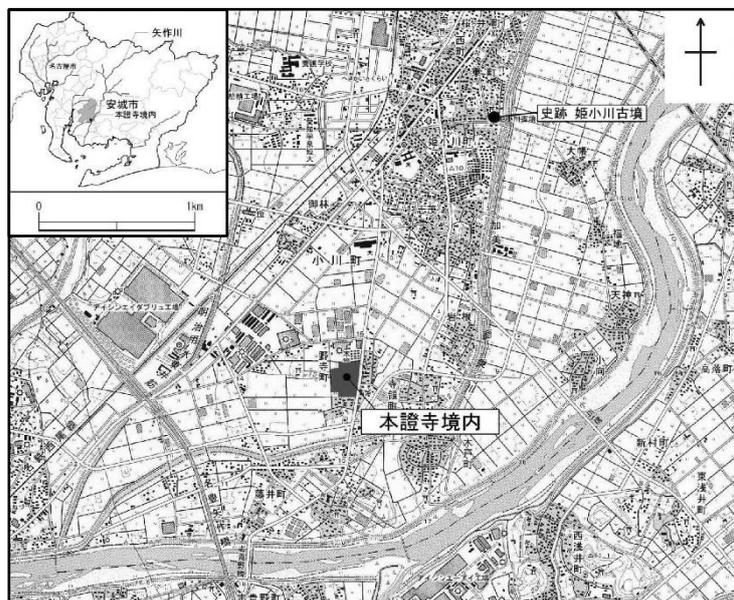
所在地	安城市野寺町野寺 26 番地 ほか
指定面積	既指定面積 37,454.49 m <sup>2</sup>
	今回追加指定面積 1,297.00 m <sup>2</sup>
	合計面積 38,751.49 m <sup>2</sup>

### 【概要】

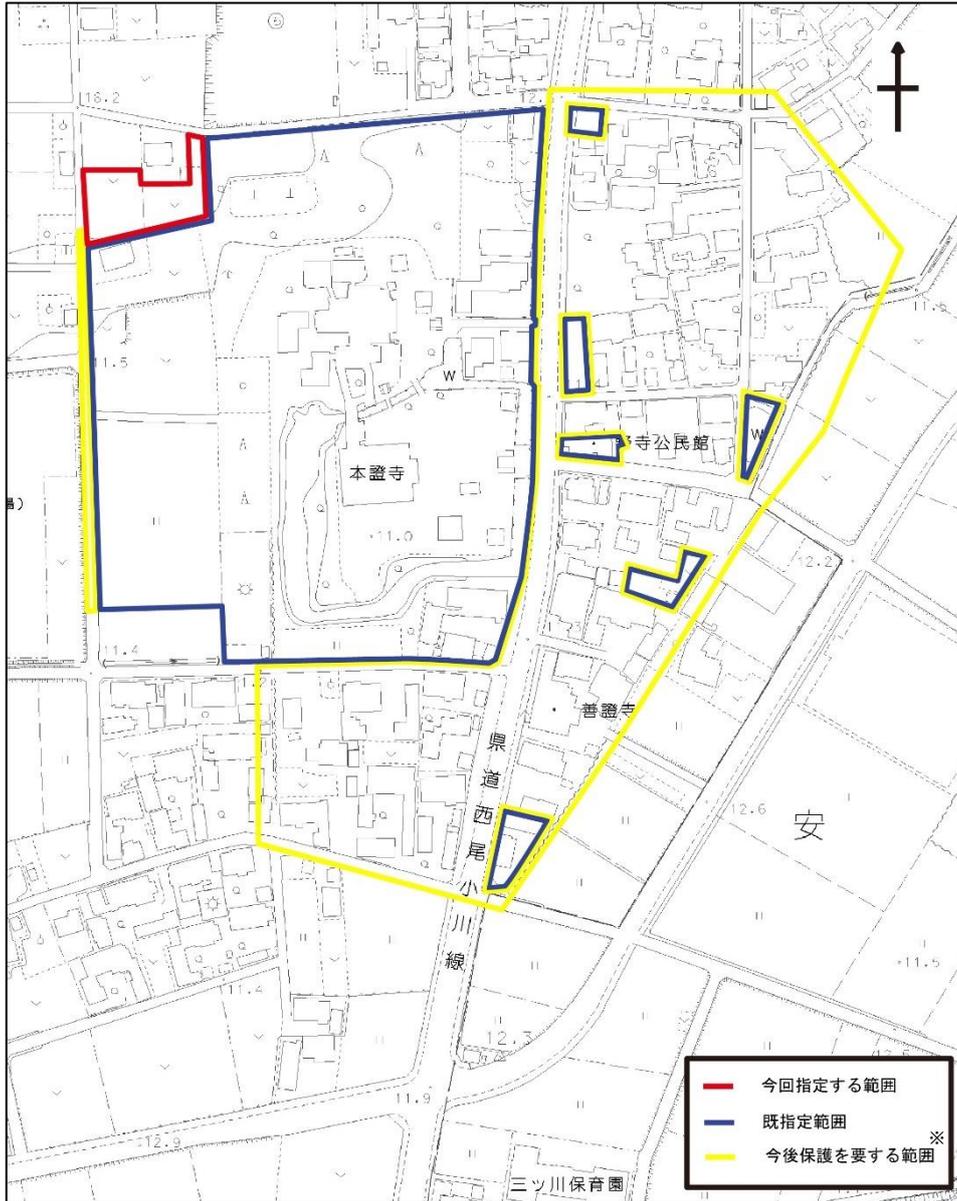
本證寺境内は、安城市の南東部、矢作川下流右岸の洪積台地（碧海台地）上に位置する、三河一向一揆の中心寺院であった本證寺の寺内町である。本證寺は、永禄6年（1563）から翌年にかけて起こった三河一向一揆で徳川家康と対立し、一揆収束後は家康による一向宗（浄土真宗）からの改宗命令を拒否したため、主要な建物は破却され、僧も国外退去になったと伝わっている。その後、赦免され、江戸時代を通じて東本願寺（現真宗大谷派）の中本山として繁栄していった。

本證寺境内の伽藍配置を知ることができるものとしては、江戸時代に作成された絵図が残されており、その絵図によると境内を取り囲む二重の堀が特徴的である。この堀については、発掘調査によりその位置が明らかとなっており、絵図とほぼ一致することが判明した。このことから、本證寺境内はわが国の仏教信仰の在り方を知る上で重要であるといえる。また、発掘調査により、江戸時代の堀と異なる形状の戦国時代の堀も確認されており、三河一向一揆当時の本證寺の姿もうかがい知ることができる。

今回追加指定をする範囲は、令和2年度及び3年度の発掘調査の結果、外堀が位置することが明らかとなった箇所であり、今回追加指定をすることにより、より一層の本證寺境内の保護を図ることができる。



本證寺境内の位置



指定範囲を示す図

※今後保護を要する範囲

将来的には史跡等として指定をし、保護する必要がある範囲のこと。



写真1 本證寺境内（上空から）



写真2 本證寺境内追加指定地（北西から）

（写真は安城市教育委員会提供）